

## 県内の患者数

矢印は、前週の数に対して ↑ 増加 ↓ 減少 → 横ばい を表しています。

	今週	前週		今週	前週
インフルエンザ	↓ 116	142	百日咳	→ 0	0
RSウイルス感染症	↑ 3	0	ヘルパンギーナ	↑ 58	34
咽頭結膜熱	↓ 20	22	流行性耳下腺炎(おたふくかぜ)	↑ 56	41
A群溶血性連鎖球菌咽頭炎	↓ 84	89	急性出血性結膜炎	→ 0	0
感染性胃腸炎	↑ 449	385	流行性角結膜炎(はやり目)	↑ 16	5
水痘	↑ 68	53	細菌性髄膜炎	→ 0	0
手足口病	→ 5	4	無菌性髄膜炎	↑ 1	0
伝染性紅斑(りんご病)	→ 4	4	マイコプラズマ肺炎	↓ 4	7
突発性発しん	↑ 54	48	クラミジア肺炎	→ 0	0

報告が多い感染症

- ☀ 感染性胃腸炎
- ☀ インフルエンザ
- ☀ A群溶血性連鎖球菌咽頭炎

- 感染性胃腸炎は、報告数 449 件(前週報告数 385 件)と増加。地区別では、山鹿、人吉、菊池に多く報告がみられる。年齢別では、1歳の66件を最多に幅広い年齢層から報告されている。
- インフルエンザは、報告数 116 件(前週報告数 142 件)と減少。地区別では、阿蘇、菊池、人吉に多く報告がみられる。年齢別では、10～14歳の31件を最多に幅広い年齢層から報告されている。
- A群溶血性連鎖球菌咽頭炎は、報告数 84 件(前週報告数 89 件)と微減。地区別では、人吉、菊池、宇城に多く報告がみられる。年齢別では、5歳の20件を最多に主に10～14歳以下からの報告である。

## ◆◆◆保健所別発生状況(インフルエンザ・小児科・眼科・基幹定点)◆◆◆

保健所名	インフルエンザ	RSウイルス感染症	咽頭結膜熱	A群溶血性連鎖球菌咽頭炎	感染性胃腸炎	水痘	手足口病	伝染性紅斑	突発性発しん	百日咳	ヘルパンギーナ	流行性耳下腺炎	急性出血性結膜炎	流行性角結膜炎	細菌性髄膜炎	無菌性髄膜炎	マイコプラズマ肺炎	クラミジア肺炎
熊本市保健所	44	3	10	35	148	37	3	1	21		6	10		15			1	1
山鹿保健所	1			1	47	1			3				*	*				
菊池保健所	19		4	11	51	6			8		12	7						
阿蘇保健所	17				4							2	*	*				
御船保健所	1				4								*	*				
八代保健所	13			2	27	11			1		4	1						
水俣保健所	2			2	22			2	2			3	*	*				
人吉保健所	10			12	43	1			1		15	4	*	*				2
有明保健所			5	10	55	9	2		6		6	1		1				1
宇城保健所	2		1	8	38	2			4		11	11						
天草保健所	7			3	10	1		1	8		4	17						
計	116	3	20	84	449	68	5	4	54	0	58	56	0	16	0	1	4	0

## ◆◆◆年齢別発生状況(インフルエンザ・小児科・眼科・基幹定点)◆◆◆

インフルエンザ定点	合計	0~5ヶ月	6~11ヶ月	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳	6歳	7歳	8歳	9歳	10~14	15~19	20~29	30~39	40~49	50~59	60~69	70~79	80歳以上
インフルエンザ	116		1	3	1	5	5	2	15	13	6	22	31	4	1	4	1	1	1		
小児科定点年齢	合計	~6ヶ月	~12ヶ月	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳	6歳	7歳	8歳	9歳	10~14	15~19	20歳以上						
RSウイルス感染症	3	2		1																	
咽頭結膜熱	20		3	7		6	2		1		1										
A群溶血性連鎖球菌咽頭炎	84			1	6	7	13	20	10	3	8	3	11		2						
感染性胃腸炎	449	6	37	66	36	51	35	43	25	26	24	10	60	6	24						
水痘	68	1	5	20	14	9	4	4	4	2	1	2	2								
手足口病	5		2	1	1			1													
伝染性紅斑	4						2	1	1												
突発性発しん	54	2	32	19	1																
百日咳	0																				
ヘルパンギーナ	58		7	24	13	4	5	3	1			1									
流行性耳下腺炎	56			1	5	6	12	13	5	3	3	2	3		3						
眼科定点年齢区分	合計	~6ヶ月	~12ヶ月	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳	6歳	7歳	8歳	9歳	10~14	15~19	20~29	30~39	40~49	50~59	60~69	70歳以上	
急性出血性結膜炎	0																				
流行性角結膜炎	16												1	3	1	6	1	2	1	1	
基幹定点年齢区分	合計	0歳	1~4	5~9	10~14	15~19	20~24	25~29	30~34	35~39	40~44	45~49	50~54	55~59	60~64	65~69	70歳以上				
細菌性髄膜炎	0																				
無菌性髄膜炎	1								1												
マイコプラズマ肺炎	4		1	2	1																
クラミジア肺炎	0																				

大きな流行が発生  
又は継続しつつある地域

- ◇ 咽頭結膜熱：菊池
- ◇ 感染性胃腸炎：山鹿

腸管出血性大腸菌感染症



今週は、7件の報告がありました。例年、夏場に多く報告される病気ですが、昨年は5月から報告が増え始めました。今年は、3月に保育所において集団発生があった他、5月以降報告が続いています。腸管出血性大腸菌感染症は、次の3つの特徴を持っています。①強い感染力 ②強い毒性があり、重症化した場合には、腎臓や脳などに障害が起きることある。乳幼児や高齢者は特に注意が必要。③潜伏期間が3～5日と長いこともあり原因がわからない場合が多くある。症状には個人差があり、下痢、腹痛、血便、発熱などがみられる。特に血便がみられた場合は、すぐに医療機関を受診する。腸管出血性大腸菌は、本来動物の腸管内に住む菌で、その菌に汚染された食品や水を飲食することで人に感染します。さらに、集団生活の場から人から二次感染することもあります。また、これまでに動物との「ふれあい体験」で感染したと推定された例も報告されています。腸管出血性大腸菌は、75℃で1分間加熱することで死滅します。食品を十分に加熱しても、加熱前の食品に使用した調理器具をそのまま使用すると、加熱した食品が汚染されてしまいます。必ず別の調理器具で扱うなどの注意をしましょう。また、調理や食事の前には必ず手を洗いましょう。